ミカン濃縮果汁

全農が全量買い上げ

価格交渉テコ入れ

愛媛、佐賀も参加 十四県連が結集

ミカン濃縮果汁の価格交渉が行き詰まっているため、全農は果汁生産県連などから果汁の全量を買い上げることをこのほど決めた。全農の買い上げ価格は月によってちがうが三月をキロ六百二十五円として毎月五円ずつ金利を加算しており、これによってボトラー（びん詰め販売業者）との価格交渉は有利に展開することが期待されている。全農が果汁の全量買い上げするのは初めてのケースである。

六二五円（三月基準キロ当たり）金利加算

五十一年産のミカン果汁原料は供給不足の見通しになっていたため、原料価格は前年キロ当たり二十三円だったものが、四十円の相場になっている。しかし、一月末の農林省調査で四十七、四十八万トン搾汁していることが明らかになり、最終的に前年と同じくらいの数字になる見通しが出てきた。

これらのことから業界のボトラーでは前年並みの買い取り価格を要求してきた。業者側は「これ以上値上げしたら消費が減退、びんやカンに詰める企業がやっていけなくなる」と買い控えはじめ、二月中旬以降、生産者団体とボトラーとのにらみあいが続き、進展していない。

生産者団体とすれば、果汁一㌔は原料ミカン十一㌔を使うため、原料四十円で四百四十円、さらに加工費百円、金利・輸送・一般管理費百円が必要なので一㌔の果汁生産費だけで六百五十円なければ採算がとれない。

果汁生産県連では交渉が行き詰まったため、全農が生産費に見合う価格で買い取ってほしいと要望した。全農では三月に果汁生産県連相当者会議を開き、具体策を検討してきたが、果汁販売一元化と生産農家の生産意欲の増進や県連の経営安定のため、特別事業として買い上げることになったもの。

買い上げ金額は年間一本でなく三月をキロ当たり果汁六百二十五円として毎月五円の金利をみて八月は六百五十円になる。

農協の果汁一元化のさい、加入しなかった愛媛県青果連、佐賀県園芸連も参加して十四県連全体が全農に結集することになった。全農では県連と契約が済みしだい全量を買い上げ、一週間か二週間のあいだに数量を確認する予定。

全農では果汁の消費が伸びていることから、需給はひっ迫しており、ボトラーの抵抗があるにしても今回の特別措置によって価格交渉は動き出すとみている。

案事項である①指定水域問題のソ連の日本十二カイリ内操業――などについて話し合われたが決着がつかず、結論は十一日以降の会談に持ち越された。日本政府筋によると、鈴木農相は十一日か遅くとも十二日の会談で、これら残された政治的懸案を片付け、一刻も早く漁獲量交渉に入りたい考え。

（1977年4月11日付、日本農業新聞）